

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》冨家 直明

【概要】

本授業のねらいは臨床心理学の理論を基本に教育相談の理論を概観するとともに、学校教育現場における実際的な諸問題に切り込むための具体的方策を探索し、将来の教員たる出席学生ひとりひとりの意欲と技量の向上に寄与することを通じて教育相談現場で役に立つ教員を育成することにある。そのため、次の3つの柱を中心にアクティブラーニング形式による講義を行う。

- 教育相談の意義と理論を知る
- 教育相談の方法を知り、カウンセリングの技法を習得する
- 教育相談の応用や展開を計画する

【学習目標】

教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸張や人格の成長を支援する教育活動である。児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につけることを目標とする。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	講義の導入、ならびに学校教育における生徒指導における教育相談の役割と諸課題を概観する	講義のオリエンテーション、ならびに、生徒指導提要进行を参考にしつつ、生徒指導と教育相談の役割の違いを理解する	冨家 直明
2	教育相談の意義と理論を理解する	生徒指導提要第5章を参考に、教育相談に関する論点の整理を行う。	冨家 直明
3	教育相談に関わる心理学の理論を理解する	教育相談に関する教育心理学、臨床心理学の理論について、重要なトピックスを整理する。	冨家 直明
4	カウンセリングの技法とその成り立ちを理解する	カウンセリング、臨床心理学の歴史と、主要な理論を整理する。	冨家 直明
5	積極的傾聴技法を知る	積極的傾聴技法を知る	冨家 直明
6	積極的傾聴技法を用いた役割演技を行う	積極的傾聴技法のロールプレイングを振り返り、今後の自己の技量を高めるためのヒントを得る。	冨家 直明
7	集団カウンセリングの理論と実際	構成的エンカウンターグループの理論と実際を体験する。	冨家 直明
8	集団カウンセリングの理論と実際	構成的エンカウンターグループの多様なエクササイズを体験する。	冨家 直明
9	集団カウンセリングの理論と実際	構成的エンカウンターグループの多様なエクササイズを体験し、ファシリテーターとしての心構えを持つ。	冨家 直明
10	不登校の事例	不登校の事例を通じて、必要とされるアセスメント、支援の方法について集団討議する。	冨家 直明
11	不登校の事例	不登校の事例を通じて、必要とされるアセスメント、支援の方法について集団討議する。	冨家 直明
12	いじめへの対処	いじめの事例を通じて、必要とされるアセスメント、支援の方法について集団討議する。	冨家 直明
13	いじめへの対処	いじめの事例を通じて、必要とされるアセスメント、支援の方法について集団討議する。	冨家 直明
14	予防的アプローチ	幼小中高連携による予防的教育アプローチを学ぶ。	冨家 直明
15	教育相談に関する行政上の諸課題	教育相談の理論を応用する行政の未来像を知る。講義のまとめとふりかえりを行う。 * レポート出題あり	冨家 直明

【評価方法】

レポート100%

【備考】

教科書 : なし

参考書 : 生徒指導提要(文部科学省HPより各自ダウンロード)

その他 : なし

【学習の準備】

<授業時間外学修>

予習(60分~90分): 文部科学省、北海道教育委員会のホームページで生徒指導、教育相談に関してどのような施策が行われているかを見る。

復習(30分~60分): 学習内容を自分の言葉でまとめて記憶定着をはかる。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得する。という臨床心理学科のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師、スクールカウンセラー

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としてのスクールカウンセラーの経験を活かした授業を行う。